

ホーム名:グループホーム（やすらぎ）					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者に書いていただいた理念「共に生きる」をディルーム及びエレベーター前に掲示し入居者の立場に立ったサービスの提供を職員に伝えている	利用者と職員が一体となった理念である「共に生きる」を主軸されホームの入り口に掲示されている。職員には、理念が平素の支援の中でどの様に活かされているかを定期的に記述させており、常に認識を新たにさせている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェ、近隣の町会の行事に参加、ボランティアの受け入れ、職場体験学習の受け入れ等を実施している。今年から一部再開予定。	事業主体の利田会の久米田病院長が町会に入られており、尾生町の地域会議に出席されている。事業所も地域の行事参加や、ボランティア受け入れ、職場体験学習の受け入れなどされ、交流再開に向けて積極的な活動を始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は久米田病院の医師や認知症専門士の資格を持つ看護師が地域包括支援センターと共に行う行事に参加していた。災害対策も兼ね尾生町と施設を繋ぐ地域会議が始まり参加予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月の第4水曜日に決めて行っている。近況報告、行事報告や避難訓練、災害対応等ご家族様に報告しご意見を伺うとともに安心していただいている。	2ヶ月に一度は開催されている。参加者は尾生町会長、介護相談員、地域包括支援センター職員、利用者家族である。議題は、近況報告、行事報告など事業所内の出来事であり、出席者の意見や提案など伺い、運営に役立たせている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の議事録を持っていくときに 毎月発行しているやすらぎのお便りも添付。話を伝え助言を頂けるようにしている。施設の修繕補助金も使わせていただき 大変お世話になった。	市には常に事業所の運営推進会議の議事録や、やすらぎの機関紙を持参されており、関係強化に努めている。今回は事業所の修繕に当たり市の補助金を受けられており、当該施設の運営する福祉事業に大きく貢献して頂いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、勉強会も行っている。点滴時も看護師が付き添うなどし、身体拘束は行わない方針。身体拘束等適正化委員会を運営推進会議の中に組み込み報告しご家族の意見も伺っている。	身体拘束のない支援は重要事項説明書にも明文化されており、また、身体拘束排除マニュアルも整備されている。リスクマネジメント会議を開き、利用者の安全を確保するため勉強をされている。身体拘束等適正委員会とは運営推進会議と同日に開催される事により、家族にとっては身近な会議となっている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	系列の久米田病院や他の研修に参加し 報告を聞き資料など閲覧している。リスクマネジメント会議や認知症ケア会議を行い振り返りを行っている。施設内の他部署や久米田病院の他施設と合同で虐待防止委員会を開催し研修も行っている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修に参加している。認知症があっても、「どうされますか」とできる限り本人の意思を尊重した支援をしている。高齢者の人権以外に外国人や性的マイノリティ等の人権についても会議などで話題に載せて共有している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は十分に時間を取り説明し理解を得られている。また、改定の際も文書にし説明。押印をいただいている		
10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は速やかに対応している。介護相談員が2か月に1度来所。運営推進会議にも参加しているため会話され意見を聞いてくださっている。家族様は来所時や運営推進会議で意見を出せる場がある。家族様のご希望はスタッフと相談し対応している。	家族のほとんどは訪問時に、職員と自然な感じで気軽に話されている。施設内では会話し易い雰囲気であることはアンケート調査でも明らかである。意見や要望については出来る限り反映されるように務められている。	
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員の入退者で生じる問題や業務内容の変更もスタッフの意見を反映し、理解していただけるよう努力している。職員と施設長が面談する機会を設け反映させている	職員が支援活動を通じて体験されてきた事は、申し送りで記録されてミーティング時に話合いされる。また管理者も職員との意見や要望についてよく話され、或は、聞かされたりして、運営に反映できるように務められている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は病院の理事長であり話し合いなどはありませんが就業規定に定義されており管理者が勤務表を作る時 各自の希望を聞いたり施設長に繋いだりしている。職員には年間120日以上のお休を提供。年次有給休暇も消化している。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得推進の為の協力は惜しまず介護福祉士はほとんどが取得スタッフの個々に応じた研修の受講を実施しており実践者研修・リーダー研修も環境が整い次第行っていく予定です。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症カフェを共同開催していたが中止したままになっている。また、大阪緑ヶ丘の緑カフェにも参加し他施設の取り組みや環境を実際目で見て自施設の運営について考えていただいていたがそれも開催が出来ないままになっている		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時まで、センター方式を利用し入居者様を理解し会話時に的確に対応できるようにし安心につなげている。また 施設に来ていたり 家庭訪問もしている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	やすらぎには相談できる看護師、医師、理学療法士、管理栄養士がいる事を伝え不安を和らげる対話を行う。入居に関する質問などは時間をかけて何度も対応し、病気の対応については看護師に要望を聞いてもらうなど安心して入居できるように努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式でその方の今後の望む生活を知り、看護師や理学療法士の力を借りながら、また、管理栄養士に食事の形態を考えていただくなどの確で安心できる環境整備に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士の会話を見守っていると良質な援助につながるがあり、何事も本人の気持ちを確認しながら一緒に行う事を基本とし「共に生きる」理念の通り支援している		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも事情があり、意見が食い違う場合は入居者の視点でお願いする事がある。入居後、家族様とのきずなが細くならない援助も行なっている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の希望通り動くのは難しいが岸和田城、流木公園、入居者が足を運んだと思われる場所にドライブで出かけている 和泉環境公園はNPO「世界の子供にワクチンを日本委員会」に寄付する為ペットボトルキャップを持参している。	施設は利用者や家族の望まれている事をよく深慮されて、同系列ではあるが、ディ施設の車を借りたりして可能な限り、馴れ親しんだ場所へ出向いて行くようにしている。この支援は利用者には特に喜ばれている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1ユニットなので関係が難しい場面もあるが、散歩やレクリエーション、リハビリを通じて関わりを深め、時には席替えを行い居心地の良い支え合える支援に努めている		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	久米田病院の認知症病棟に入院する方が多く往診の医師や病棟の師長から様子を聞くこともでき、家族様に出会い近況を伺った際、相談を受けることもある		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの情報提供と共に都度本人の言葉に耳を傾け 把握が困難な場合は担当スタッフを交えたカンファレンスを行い寄り添う援助を行っている	担当職員は利用者の普段の生活の様子を観察し記録するようにしている。記録は全員で共有し合う事ができ、利用者の思いや意向を判断するが、難しい場合は、利用者に話し掛けるなどして心の内を正確に把握するように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時までに、これまでの暮らしや思考をスタッフが理解出来るようにセンター方式を利用し、入居後は経過把握用紙を使い会話を書き留め不安を緩和する対応を共有している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、連絡ノート、カンファレンス等で現状を把握共有している。また、入居後数日は経過把握用紙に記載し心身状態の流れを把握共有している	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3か月ごとに理学療法士、看護師、主に担当スタッフのアセスメントを参考にカンファレンスを行い暮らしに密着した計画を作成し家族様にも理解していただいている	計画の担当職員が3か月間という短い期間でモニタリングと、アセスメントを策定され、管理者、理学療法士、看護師等と話し合われて、介護計画を作成され家族の了承も得ている。計画期間が長期でないが故に、利用者の現状に即した支援ができています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は共有し出勤時毎に読み把握している。毎日の個別記録を参考に介護計画の見直しやカンファレンスを行い看護師や理学療法士、管理栄養士にも助言をもらい食事内容などは都度変更対応してもらっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	やすらぎの入居者とも顔なじみの関係となっている理学療法士が多岐にわたり気軽に相談でき対応してくれる。また、管理栄養士が食事の状態を見て工夫してくれる。自宅同様飲酒を希望される方には寝る前にビールを提供するなど対応できている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの受入れは継続。生け花が好きな入居者のために他のグループホームの生け花カフェにも出かける等色々な催しで交流をしていたが現在は中止。訪問美容室はカットだけでなくセットまでしてくれるので喜ばれている。	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院に認知症病棟がある為、かかりつけ医を併設病院の内科医師に希望される方が多いが併用されることもある。休日、夜間等緊急時の対応は 併設病院の医師 看護師に連絡し適切に支援している。堀内歯科の歯科医が毎週月曜日に来所してくれている。	従来からのかかりつけ医の利用は、家族が往診に連れて行かれる事を条件に認められているが、近くの協力病院に認知症病棟がある事もあり、全員が協力病院の久米田病院に診察を受けられている。また、24時間対応も安心できるという利点もある。

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師は階下のディケア兼務で午後やすらぎに来所 日々の状況をリーダーから説明を受け、気づきがあれば職員に適切に指示している。看護師不在の緊急時には併設病院の看護師に相談している		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時情報提供表を提出したり看護サマリーをいただいたりし都度状況の把握に努めている。MSWの方たちとも個々に親しくさせていただいている。併設病院の場合は出向いてMSWに情報を提供している		
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書の説明と共に方針も伝えている。ただ、なかなか実感される家族様は少ない為 ある程度の時期に家族様と再度向き合って対話している。	重度化時の対応については、入所時に、規定通りの方法で伝えている。また、同意書も取られて齟齬のないように計らわれている。既に家族は、施設ではグループホームとしての役割は生活支援を中心にされており、医療介護や看とりはされない事を理解されている。その為、利用者が重度化されたときは、施設は家族や主治医と相談し、次の入院可能な医療機関先の紹介を行っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルも有意義に活用しており 救急に至る前の段階で気づくことが出来るよう変化を共有している。緊急時は看護師や併設病院との連携を想定したマニュアルも貼っている。		
35 13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の他部署や久米田病院の他施設と合同で業務継続計画を作成し連動出来る。避難訓練を実施 併設病院等協力体制はお願いしている 防災の為備品も購入 栄養課と連携し保存食も準備している 施設外に避難する時に首にかける防災連絡票も作り置いている	避難訓練は消防署員の立ち合いのもとで年2回実施している。午前中は昼火災を想定し、午後は夜火災を想定し例年通りの避難を行った。今年度は、業務継続計画（BCP）も、同法人内で合同によって作成をされた。その為、その実質的な価値は高いといえよう。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への訪問は必ずノックし声かけを行い言葉かけについては 認知症ケア会議などで繰り返し意識付けを行っている	職員は毎月一回はケア会議に参加し、常に利用者の立場に立って物事を考え、支援にどのように活かしていくかが話し合われている。また、利用者の接遇についての研修にも受講されスキルアップに繋がられている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「外に出たい」「お酒飲みたい」等出来る事は個別対応を大切にしている。言葉にならない行動には「どうされましたか？」と問うことで 考えることを支援している	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入床、起床時間は決めていない。何もしない生活は認知症を進行させてしまうので 朝コーヒーを飲みながら皆で日課の散歩やレクリエーションの内容を決めている（自由参加）	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類はご自身で選んでもらい、出来ない方もおられるがスタッフが見せ二者択一で選んでもらっている。訪問美容師のカットやセットは笑顔があり表情が良い。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	どうしても苦手な食べ物は栄養課が工夫して別の献立を提供してくれている。盛り付けや片付けは入居者の方とスタッフが一緒に行っている。現在は職員は検食のみと一緒に食事をしていない	協力病院である久米田病院の栄養課が、栄養価値と美味しさを備えた食事を提供し利用者に喜ばれている。中には一緒に食事の準備の一部をする方もいて、やり甲斐を感じられている。美味しさを工夫できる事は、同じ法人であるが故の利点といえよう。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	管理栄養士に毎月食事量や排泄、採血結果等を提供。好き嫌いや糖尿病食、ミキサー食等に応じている。無理なくカルシウム、亜鉛を補給出来る乳カル酵素ファイバーを使用 水分摂取はとろみ剤等も使用し嚥下状態に対応。ディールーム	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自、食後すぐに口腔ケアの声掛けを行い 援助している。義歯は夜間、洗浄液につけ清潔を保持している。毎週月曜日に堀内歯科が訪問。希望者には掃除治療が施されスタッフにも指導がある	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	生活リズムを整えると 全介助からトイレに行くことが出来るまで回復された方がおられた。失禁には羞恥心が伴うため排泄時間を吟味し誘導を行っている。家では紙パンツの方も失禁パンツに切り替える事が出来る方は対応している。	生活リズムを取り入れられる事で、より良い改善へと繋がられている。試行錯誤の成果が少しずつ現れて来るといえよう。これから考える支援の継続をさせて頂きたい
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保 フルーツの提供も多く散歩や竹踏み レクリエーション リハビリなどの運動量も便秘の予防対策として対応している。お米に食物繊維が多く含まれるファイバーを混ぜ対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に添う事は難しい。週3回、体調に合わせ時間を調整しながら階下の大浴場使用。ゆうパルの利用者と通路で会い良い刺激を受けることもある。気の合う入居者同士で入ることが出来る為入浴拒否が減っている。	入浴日の変更はできないので、入浴を拒まれる方は時間差で誘われている。週3回は入浴されているので、健康と清潔さは維持されている。一階の大きな風呂場を利用される事で入浴を楽しまれているようである。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、入床時間は決めていない。散歩やレクの合間は居室で臥床したり自由に生活している。昼夜同じスタッフのローテーションなので信頼関係を密に支援している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストは職員がいつでも見られるようにし、服薬変更は看護師、管理者から説明している。症状の変化は記録に残し共有している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯干し、換気の窓開け等 個人の力を見極め手伝ってもらっている。散歩や外出が一番気分転換になるが気候の変化が激しくレクリエーション等で支援している。就寝前にビールを飲む入居者はありがたいのメモを盆に置いて下っている。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は季節の催しなどに参加していたが コロナ禍後は室内の催しの外出は難しい。マスク着用で買い物に同行したりドライブに出かけたり、環境公園やトンボ池公園には出かけている。久米田看護学校の生徒が通所リハビリに実習に来た際は一緒に外出に行き会話が弾んでいる。気候の変化が激しいので散歩できる日が減ってしまった。	コロナ禍の影響や、夏の猛暑の日などもあり、かなり制限された中ではあるが、安全と判断された範囲内で外出するようにはされている。岸和田城や久米田池の桜、商店街などを車中から見て回ったりされている。事業所の外出支援の状況は、インターネットにも掲載されている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の方がお金を所持している化粧品や口腔ケア用品 ビールなど外出が可能な時はコロナ禍でも出来る支援は行っている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	公衆電話も設置。Skype等でも会話できる。携帯電話を持つ入居者もおられ、はがき等は手渡ししている。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディールームから中庭がみえ季節感が分かる。季節ごとに利用者と一緒にディールームの壁面飾りを作成。周囲に大きな建造物がないため静かな環境が保たれている。中庭からの採光があり温度計の設置コロナ禍なので空気清浄機を多く設置等 居心地のよい環境にしている。ピアノ室も完備。玄関も一面ガラスでガラス越しの面会可能。	共用空間の中央にはガラス張りで見えた吹き抜けの空間があり、外からの自然で明るい光を受け入れている。壁には職員と利用者が合作した季節ものの作品が掲げられており皆で楽しんでいる。また、ピアノの為の部屋はどこか品の良さも感じさせている。全般的な色調は大人の仕上がり、長時間居てもゆっくりと寛げるような仕様に仕立てられている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は有意義に活用し中庭を挟んだ廊下やテレビの周りにソファを置くなど工夫している。玄関や廊下の椅子に座り中庭から空やツバメの巣作りを眺める方もおられ自由に過ごすことが出来る。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内も広く一間の押し入れも完備している為、個人の愛着のあるものを持参出来る。なじみのある家具等を配置している。多くの写真や飾り物を持って来られる家族様もおられる。生け花が好きな方はご自身で活け居心地よく生活している。	居室の奥の外窓には障子が入って和風感覚であり採光もよく明るい。電動ベッドは就寝、離床時に高低調整できる。使い馴れた家具や置物が、入居者に自分だけの部屋であるという実感を与え、着替えが得られている。定期的な布団干し、シーツ交換で清潔さは維持さ	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札は漢字に振り仮名をふり理解が難しい方や背の低い方には目線に合わせた位置に表札を作っている。トイレの使い方や混乱する場面をわかりやすく表示している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて いる (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの 拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えて いる (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思 う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思 う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない